

令和2年度第1回
柏市立図書館協議会
グループワークまとめ

柏市立図書館

Aグループ意見集約

(Aグループメンバー)

三浦会長, 大野委員, 羽村委員, 増山委員, 田中委員

黄色付箋・・・自身の意見, アイデア

ピンク付箋・・・今後の課題等

SNS等

つながり・
連携学校
(子ども)

デジタル化

市民が撮った写真を
アップロードできる仕組
み(デバイス)が必要

SNSによる情報収集と
情報発信

今失われていく短期的
な情報を「未来の人」の
ために集めることも重
要

学校が地域に聞きに行
く⇒主体的に取り組ん
でいきかけ

デジタルで残していくこ
とが重要

インスタ映えする場所

SNS
#柏に住む(テーマ)
などでの発信を収集

図書館→「この情報下
さい」→市民から集める

小2
まちたんけん

地域のバラバラの情報
をクリッピングし、1ヶ所
に集めていくこと

SNSはいつか無くなる
かも
しっかりとバックアップ
をとっておくことが必要

柏を発信する
⇒図書館が収集

図書館が発信すること
で、反応(フィード)を得
て、つなげていく

まちたんけん(3年)で
まとめた内容を集めて
いく

「柏の人」に限る必要は
ない
インフルエンサー

リニューアルするHPで
誰でも書き込める仕組
み(アップロード)
⇒その後図書館が整理

人からの話を聞くことで
しか得られない資料が
本当の地域資料

小3
わたしたちの柏
地域インタビュー
⇒保存

図書館に来館した人や
SNS等で、アンケート
等で情報収集

きっかけ

その他意見や課題等

情報は欲しい
でも手に入らない

地域資料とは？
イメージを共有したい

市民にとって負担にな
らないやり方を
→やりたい人、できる人
しかやらないと偏り大き
い

まずは失敗を恐れず、
図書館職員がチャレン
ジしていく

地域資料は誰が見た
い？かを考えることが
重要

使えること、使い方、集
め方を知らない
→使い方、集め方の
PR

分館を活用していく

「柏市を知る」ことが重
要(例:人口は?)
市民が知る方法が必要

柏についての疑問
-自分たちの町-
知りたいこと!!

情報を持っていくのは
面倒

柏「学会」をやっては？
集録を作ると情報集め
られそう
→権威付け

今の風景、情報を残し
ておくことで、振り返る
ことができる(昔の地図
では分からない)

古い地図・古い地名を
知ることができる
(ex.東日本大震災)

図書館(市)が集められ
る資料って・・・?

これからの図書館は文
書だけではない、と考
えていくべき

情報収集に関わった市
民
→意識の変化

市民にとって、取り組む
メリットを提示したい
⇒PR

無作為に集めることが
重要

いつの、誰のための地
域情報？
知りたいのは誰？

市民にできないことをす
るのが行政

民間図書館との差別化
は？

柏市検定などあれば。
その資料が図書館にあ
れば読みたくなる

何かを募集・告知する
のは、労力はいとわな
い

今起きている地域の「こ
と」・・・これを教えるこ
とが重要

Bグループ意見集約

(Bグループメンバー)

加藤委員, 窪田委員, 上野委員, 菅原委員, 丹間委員

黄色付箋・・・自身の意見, アイデア

ピンク付箋・・・今後の課題等

SNS等

つながり・連携

学校
(子ども)

デジタル化

情報発信(何があるか
知らないの)

“他孫”という言葉で関
わってもよいというきっ
かけに

立場ごとの課題や状況
を把握して、相互に補
い合う

学校や子どもを中心と
したコミュニティの再構
築

コロナで電子情報の保
存が進むが、それに対
応できない人のアナロ
グ情報を平行に進める
必要あり

魅力的な施設、空間だ
ということをどのように
広めるか<広報>
・・・ターゲットをしぼった
広報の工夫

高齢者の方々の有する
経験をもっと生かす

「子どものため」を軸に
することで地域の人た
ちがまとまっている

学校場で多くの子ど
もたちに平等に学べる
場
柏市の伝承

地域の資料収集をして
いることを広くアナウン
スする
→自治会・小中学校・公
民館・図書館など

宝庫
⇒開いてもらうための
人つなぎ(コーディネー
ト)

少子高齢化の捉え直し
“地域が大家族”

小学校で出前授業(読
み聞かせ、書物の貸し
出し等)を活用し、児童
に直接アピール

きっかけ

その他意見や課題等

イベントなど、実際に参加できるものの開催

柏市のすべての資料、イベント、本、歴史書などのコーナーをつくる
未来の子どもたちに残す

地域資料の中に“語り”もあるのでは
聞き取りも必要

図書館などで柏の土地に伝わる歴史や昔話、農業、工芸などの文化に関する体験学習をする

イベントへの参加、カフェの利用から地域に意識をもつ

活用のしやすさも考える

市民主導の地域づくり
(行政は黒子?)

活用できてこそその収集であり、保存
未来のための保存だけでなく、現時点の保存も考えていきたい

宝庫
⇒それを開くきっかけが必要

・魅力的な環境
・居心地がよい多目的な使用(読書以外の楽しさが味わえる)

魅力的な取組を
→魅力的な施設、自分では用意できない資料、豊富さが求められる

当事者意識を持ってもらうためには、興味を持ってもらうことが必要
そのために「魅力的な」ということを伝える

地域のことを知る機会
→講演会、イベントで学び、気付くことの開催

高齢者は、技術や経験を生かせる場やイベントを作り、子どもたちの学びの場をつくるイベント等

地域の特性、歴史など、長年研究、経験された方の資料提供してもらう

地域のお宝であることを日常生活の中から掘り出す
きっかけ作り